

# 第104代土木学会会長 退任挨拶

## 生産現場の イノベーションを目指して

田代 民治



会長を退任するにあたり、会員の皆様に一言ご挨拶申し上げます。

昨年の総会でも申し上げましたが、約30年、現場一辺倒で仕事をして参りました者が学会会長を仰せつかりましたので、土木界の喫緊の課題である、「担い手確保」、「生産性の向上」に取り組みたいという思いから、会長特別タスクフォース「現場イノベーションプロジェクト」を次世代に繋ぐ生産現場のあり方へ立ち上げ、生産現場に目を向けた3つのテーマで活動をさせていただきました。

第一のテーマのコンクリート関連では、昨年末、コンクリートライブラリー「コンクリート構造物における品質を確保した生産性向上に関する提案」を発売していただきました。プレキャストコンクリートの活用にも焦点を当てた本ライブラリーにより、生産性・安全性向上への大きな一歩

を踏み出しました。

第二のテーマのICT・ロボット関連では、本年6月、ICTの理論や技術を体系的に紹介したテキスト「土木情報学―基礎編―」を発売していただきました。この土木情報学を教育カリキュラムに取り入れていくことについて、主要大学との検討も開始しています。土木界の働き方改革、魅力の向上に、ICTの活用は必須であり、これを支える教育・人材育成の観点から、土木情報学が新たな学問領域として確立されていくことを期待しております。

第三のテーマの女性や若手を含めた担い手確保では、学会が橋渡し役となり、大学・高校等に現場見学先を紹介する仕組みを、土木広報センターが運営するホームページ「土木①」上に立ち上げ、すでに利用が始まっています。また、現場で働く人の魅力(表情、姿、技)をテーマとした「土

木の現場で働く人たち」写真コンテストでは、600点以上もの応募をいただき、最優秀賞1点、優秀賞5点を選定し、報道機関懇談会、学会誌等で公表しました。

この他、各テーマとも委員会横断の体制で、また、支部とも連携して、様々な活動を行って参りました。詳細は、学会誌6月号の特集でも紹介していますが、今回の取り組みが第一歩となり、生産現場に目を向けた学会活動がさらに広がっていくことを期待しております。

学会全体としては、昨年9月、東日本大震災から5年の節目に、「復興、そして創生へ」土木の力で地域を元気に」を大会テーマとして、全国大会を仙台で開催しました。東北支部を中心とした皆様のご尽力のおかげで、素晴らしい大会となりましたこと、改めて感謝を申し上げます。

また、12月には正会員の3分の2以上の出席及び委任をいただき、臨時総会を開催して、学会の定款変更を行いました。懸案であった、インターネットを使った委任状の総会開催に当たっても、相当な効率化につながっていくと思っております。

さらに、学会の裾野拡大の観点で、生産現場を支えるコンクリートや重機などの関連企業や協力会社に学会活動への参加

を呼びかけました。減少傾向にあった法人会員が大幅に増強され、学会収支の改善の一助ともなりました。

広報関係では、オンライン土木博物館「ドボ博」東京インフラ解剖のPR映像を、東京都や国土交通省関東地方整備局のご協力を得て、公共の場に掲出させていただきました。また、日刊スポーツ紙と協力関係を作り、学会の広告や関連記事を掲載してもらうなど、特に不特定多数の一般の方を対象とした土木広報を推進しました。

国際関係では、昨年8月にハワイで開催された第7回アジア土木技術国際会議(CECAR7)に出席し、次回開催国としての引継ぎをして参りました。今回のCECAR8は、2019年4月に東京で開催されますので、皆様の積極的な参加とご協力をお願いいたします。

以上のように、会長としての様々な務めを果たすことができましたのも会員の皆様や学会事務局の支えがあったからこそ、と深く感謝しております。これから、大石新会長を中心として、土木学会の新たな1年が始まりますが、皆様の変わらぬご協力・ご支援をお願いし、退任に当たっての挨拶とさせていただきます。

1年間、本当にありがとうございました。